

# News Release

## 日本の消費者は新しいスマートデバイスの購入意欲が低い

### デロイト「世界モバイル利用動向調査 2015」 第1部 デバイス所有・通信環境編

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社は、世界 30 ヶ国 49,000 人を対象に実施した「世界モバイル利用動向調査」をもとにした、日本、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、中国、インド、シンガポール、ブラジルとの比較分析結果をまとめました。

調査では、デバイスの所有／利用動向、携帯電話事業者の選択理由のほか、携帯電話・スマートフォンの利用動向、モバイル決済や IoT に関する利用状況などについて調査を行っています。今回発表の第 1 部では以下のようなトピックスを取り上げています。

なお、レポートの詳細ウェブサイト(<http://www.deloitte.com/jp/mcs2015v1>)をご覧ください。

#### ■調査レポートの主なトピックス

##### ●新しいスマートデバイスの購入意向

- 日本は他国と比較して新製品への反応感が鈍い。他の先進国では「すぐ最新のデバイスを購入する」と回答した比率が 3～9%だが、日本は僅か 1%、「非常に気に入った場合、最新のデバイスを購入する」を含めても 15% である。(図 1)
- 年代別の内訳を見ても、若年層であっても「すぐ最新のデバイスを購入する」と回答した比率が 1%であり、新製品への反応感が鈍い傾向である。(図 2)

##### ●新品の購入率と購入後の携帯電話の利用期間

- 新品での携帯電話購入比率はいずれの国でも高いが、他国と比較し日本は中でも 97%と特に高い。中古市場につながる譲渡・販売の比率が日本は 2 割程度と他国のおよそ半分となっている。(図 3、4)
- 3年以上利用している消費者の比率は欧州各国では 4 割程度であるが日本は 54%と高く、他国と比較すると、日本の消費者は、新品を購入しそれを長く利用する傾向が見られる。(図 5)

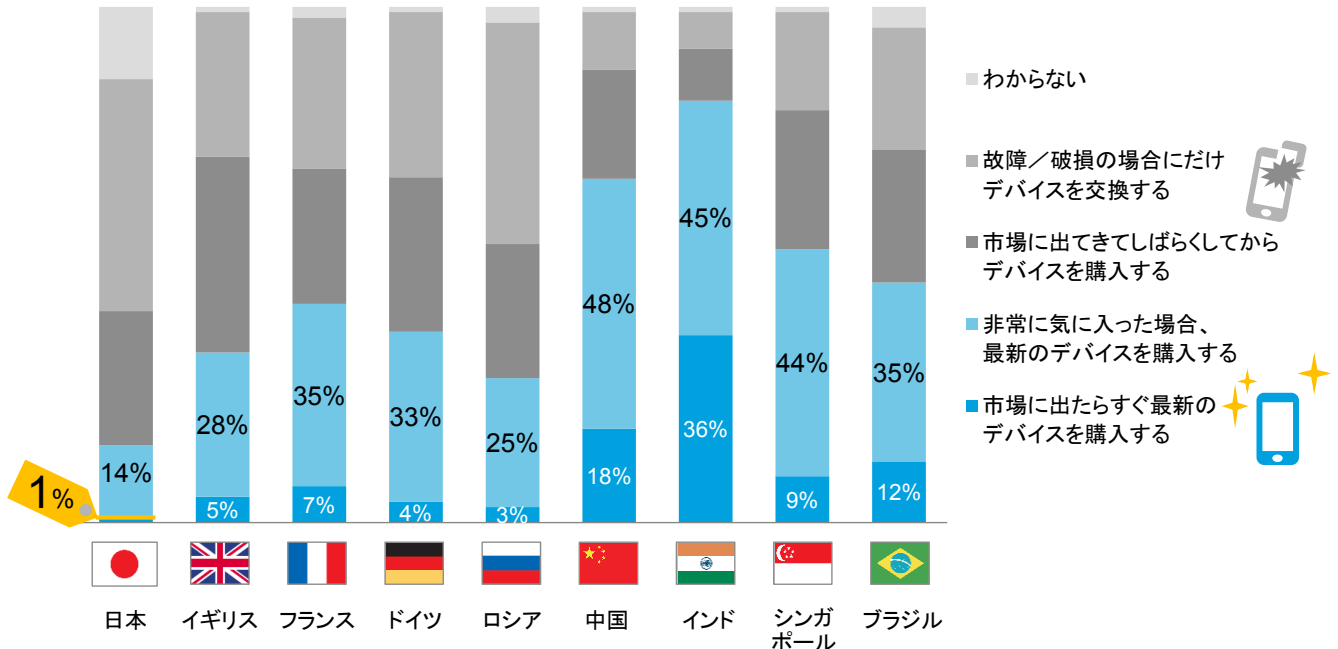
##### ●携帯電話事業者の選択理由

- 日本では携帯電話事業者選択において、家族などとのパッケージ料金があることや機種変更が可能であることの優先度が高い。(図 6)
- 他国ではカスタマー／テクニカルサポートの質を選択理由の上位に挙げている国もあるが、日本では選択要素の高い順位にはなっていない。(図 6)
- ネットワーク品質については、日本では外出先では 4G の方が (Wi-Fi より) 速い／少し速いと認識されているが、自宅では通信速度への認識は 4G が速い／遅い／Wi-Fi と変わらない の同程度に三分される(図 7)

【図 1】 新しいデバイスに対する行動（グローバル比較）

日本は他国と比較して新製品への反応感度が鈍い。他の先進国では「すぐ最新のデバイスを購入する」と回答した比率が3~9%だが、日本は僅か1%

Q. 新しいデバイスに対する行動で最もあてはまるものは？

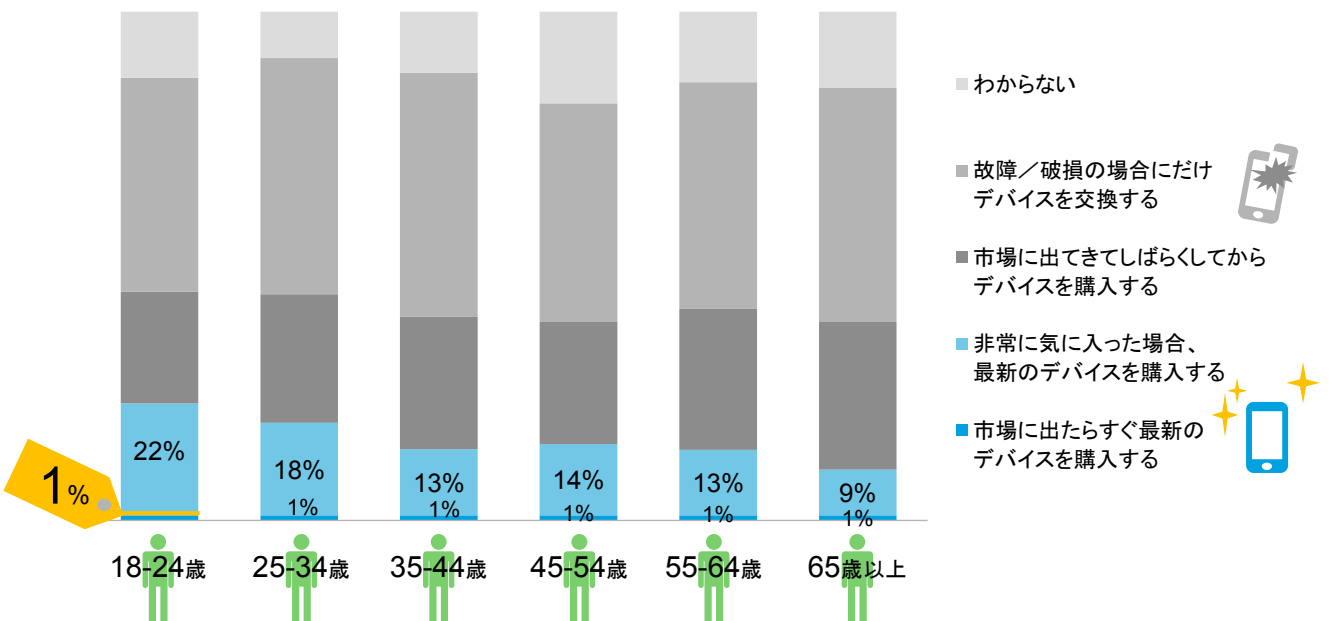


n: 日本=2,000、イギリス=4,000、フランス=2,000、ドイツ=2,000、ロシア=2,000、中国=2,000、インド=2,000、シンガポール=2,000、ブラジル=2,000  
 脚注: 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない

【図 2】 新しいデバイスに対する行動(日本国内年代別比較)

日本においては、若年層であっても「すぐ最新のデバイスを購入する」と回答した比率が1%であり新製品への反応感度が鈍い傾向である

Q. 新しいデバイスに対する行動で最もあてはまるものは？(日本)

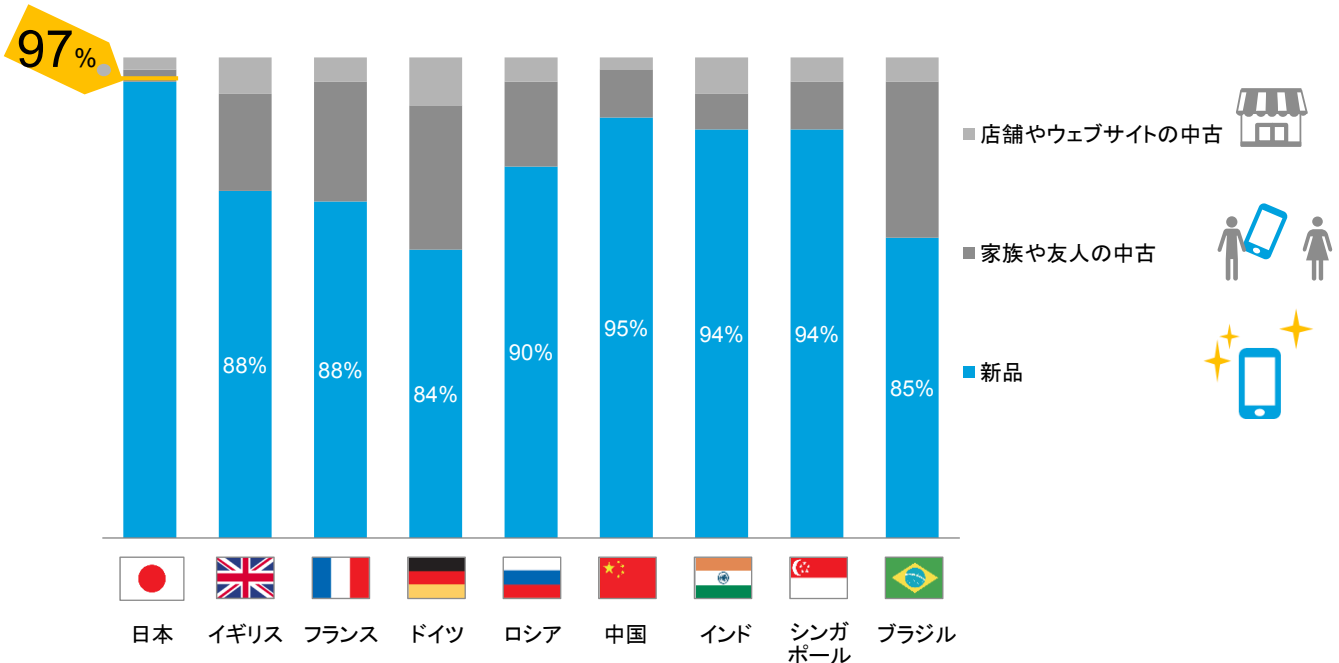


n: 18-24歳=185、25-34歳=311、35-44歳=403、45-54歳=348、55-64歳=372、65歳以上=381  
 脚注: 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない

【図 3】 携帯電話(スマートフォン、フィーチャーフォン)の購入は新品か中古か？

いずれの国でも新品での購入比率が高いものの、日本はその中でも97%と特に高い比率となっている

Q. 現在使用している携帯電話の購入もしくは入手は新品か中古か？

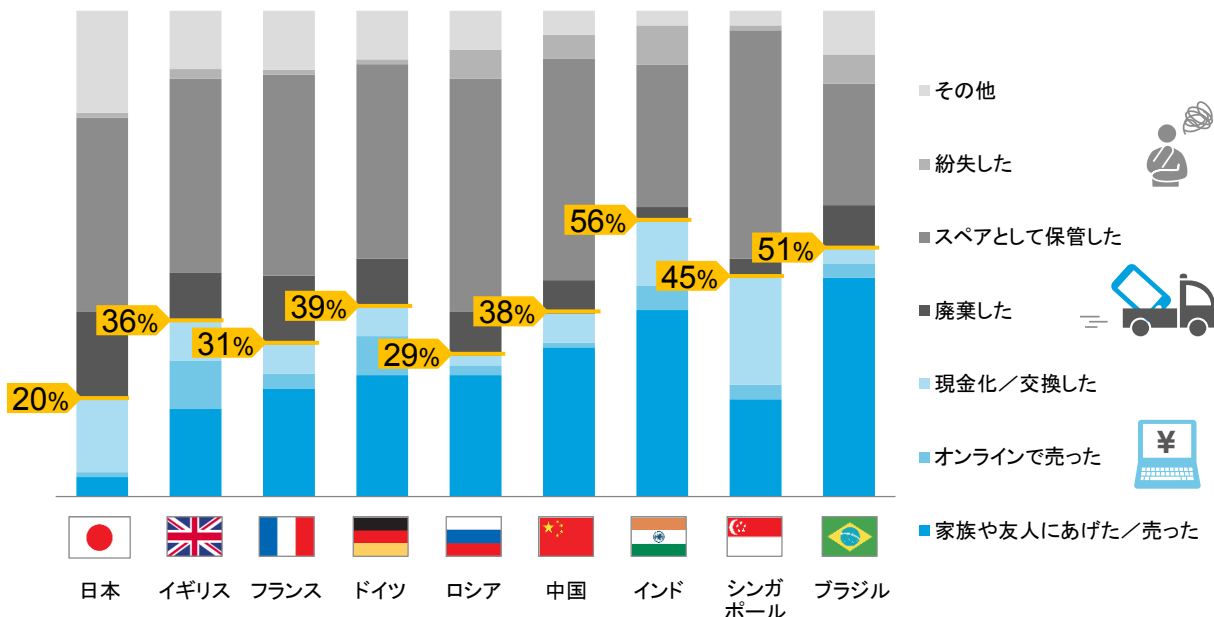


n: 日本=1,420、イギリス=3,682、フランス=1,829、ドイツ=1,821、ロシア=1,888、中国=1,775、インド=1,822、シンガポール=1,903、ブラジル=1,767  
 脚注: 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない  
 \*: 携帯電話にはフィーチャーフォン、スマートフォンを含む

【図 4】 機種変更時、それまで使用していた携帯電話(スマートフォン、フィーチャーフォン)の処分方法は？

日本では他国と比較すると、中古市場につながる譲渡・販売の比率は、他国は3~5割程度に対して日本は2割程度と他国の半分程度となっている

Q. 前回の機種変更時、それまで使用していた携帯電話\*の処分方法は？

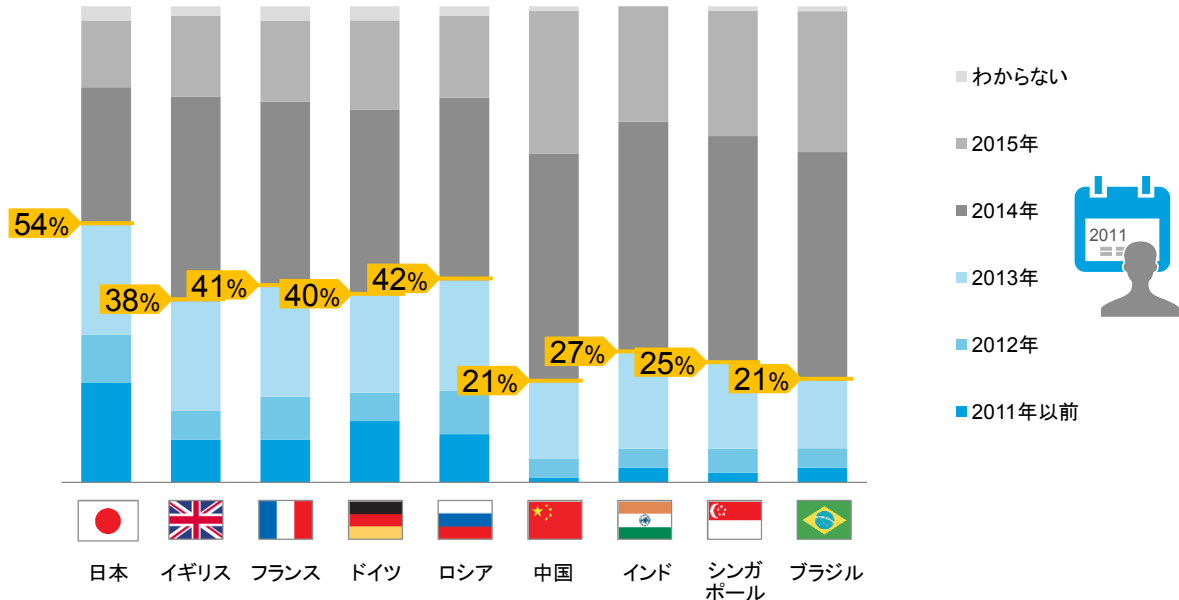


n: 日本=1,420、イギリス=3,682、フランス=1,829、ドイツ=1,821、ロシア=1,888、中国=1,775、インド=1,822、シンガポール=1,903、ブラジル=1,767  
 脚注: 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない  
 \*: 携帯電話にはフィーチャーフォン、スマートフォンを含む

【図5】 現在使用している携帯電話(スマートフォン、フィーチャーフォン)を入手した時期は？

日本では、他国と比較して携帯電話を長期的に利用する傾向が見える。3年以上利用している消費者の比率は欧州各国では4割程度であるが、日本は54%と高い

Q. 現在使用している携帯電話を購入または入手した時期は？

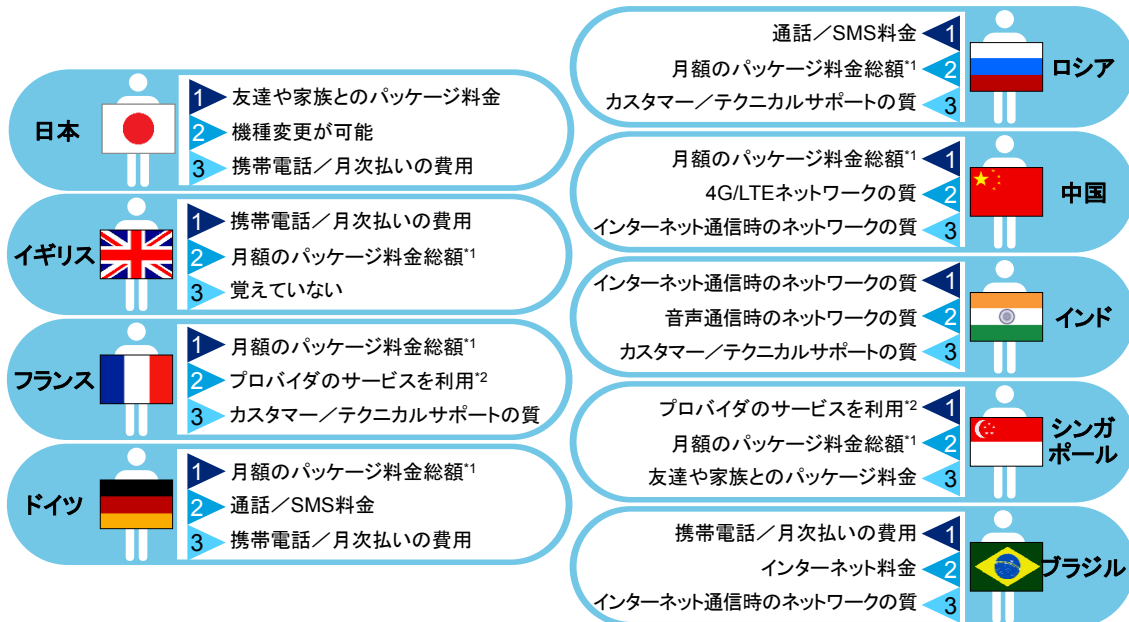


n: 日本=1,420、イギリス=3,682、フランス=1,829、ドイツ=1,821、ロシア=1,888、中国=1,775、インド=1,822、シンガポール=1,903、ブラジル=1,767  
 脚注: 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない  
 \*: 携帯電話にはフィーチャーフォン、スマートフォンを含む

【図6】 携帯電話事業者を選んだ理由

日本では携帯電話事業者選択において、家族などとのパッケージ料金があることや機種変更が可能であることの優先度が高い

Q. 現在契約している携帯電話事業者を選んだ理由は？ ※複数回答



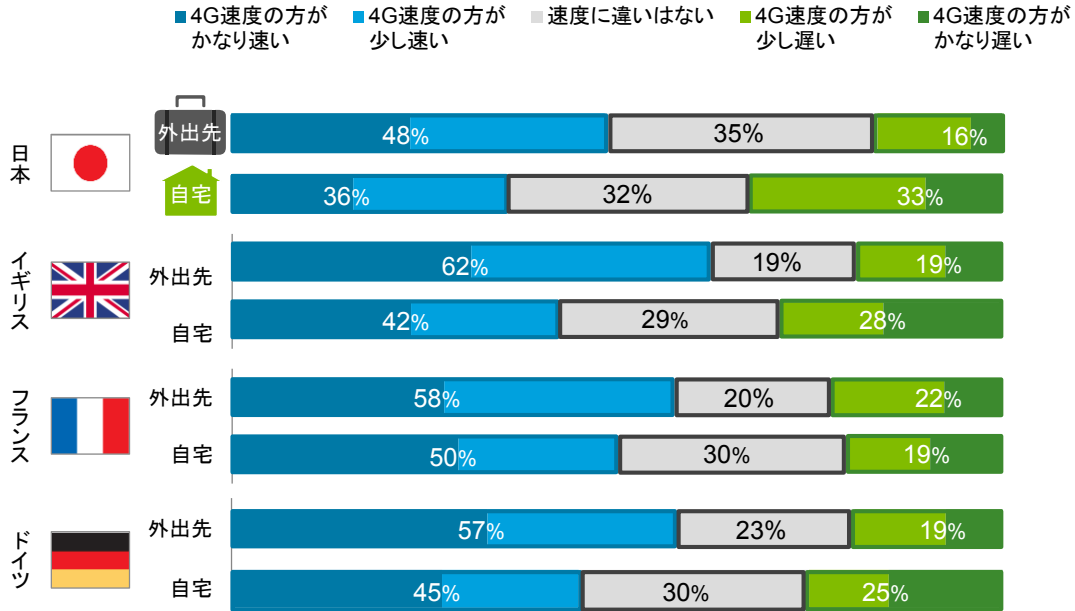
n: 日本=1,420、イギリス=3,682、フランス=1,829、ドイツ=1,821、ロシア=1,888、中国=1,775、インド=1,822、シンガポール=1,903、ブラジル=1,767  
<sup>\*1</sup>: 例: 携帯電話、インターネット、通話、SMSを含む  
<sup>\*2</sup>: 例: インターネット、テレビなど

※各国の10位までの順位はレポートでご確認頂けます

【図 7】 4G と Wi-Fi の通信速度を比較した印象

**日本では、外出先では4Gの方が(Wi-Fiより)速い／少し速いと認識されているが、自宅では通信速度への認識は同程度に三分される**

Q. 使用している携帯電話の4GとWi-Fiの通信速度を比較すると？



n: 日本・外出先=363/自宅=452、イギリス・外出先=700/自宅=652、フランス・外出先=344/自宅=363、ドイツ・外出先=271/自宅=271  
 脚注: 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100にならない

【世界モバイル消費者調査について】

「世界モバイル利用動向調査 2015」は、デロイトのテクノロジー・メディア・テレコムプラクティスによって実施されたグローバル調査です。本レポートはグローバル調査をもとに日本のテクノロジー・メディア・テレコムインダストリーによって作成されました。第1部はデバイス所有・通信環境、第2部はデバイス利用状況・モバイル送金/決済・IoT/スマートデバイスについて分析しています。(第2部は後日公開予定)

■ 調査概要

- ・調査形式: PC によるオンラインアンケート  
(デロイトが設計した調査項目をもとに外部調査会社にて実施)
- ・対象国: 全 30 ヶ国
- ・人数: 49,000 人
- ・年齢: 18 歳以上
- ・期間: 2015 年 5 月から 2015 年 8 月

■ 本レポートで使用したデータにおける主要な留意点

- ・日本、イギリス、フランス、ドイツ、シンガポールについては、その国の年齢・性別・地域・社会経済状況を反映したデータとなっています
- ・ロシア、中国、インド、ブラジルについては、調査方法がオンライン調査であったことが影響し、都市部高所得者層の回答比率が高いデータとなっています。
- ・サンプル数は、イギリス 4,000、その他各国 2,000 となっています。
- ・本調査はウェイトバック集計後の数値で表記しています。

<報道関係からのお問い合わせ先>

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社  
 マーケティング & コミュニケーション 高橋 祐太  
 Tel: 03-5220-8600 Email: [DTC\\_PR@tohatsu.co.jp](mailto:DTC_PR@tohatsu.co.jp)

デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ 税理士法人および DT 弁護士法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー等を提供しています。また、国内約 40 都市に約 8,500 名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト([www.deloitte.com/jp](http://www.deloitte.com/jp))をご覧ください。

デロイト トーマツ コンサルティング(DTC)は国際的なビジネスプロフェッショナルのネットワークである Deloitte(デロイト)のメンバーで、日本ではデロイト トーマツ グループに属しています。DTC はデロイトの一員として日本のコンサルティングサービスを担い、デロイトおよびデロイト トーマツ グループで有する監査・税務・コンサルティング・ファイナンシャルアドバイザーの総合力と国際力を活かし、あらゆる組織・機能に対応したサービスとあらゆるセクターに対応したサービスで、提言と戦略立案から実行まで一貫して支援するファームです。2,000 名規模のコンサルタントが、デロイトの各国現地事務所と連携して、世界中のリージョン、エリアに最適なサービスを提供できる体制を有しています。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザーサービス、リスクマネジメント、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界 150 を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを提供しています。デロイトの約 220,000 名を超える人材は、“making an impact that matters”を自らの使命としています。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTL および各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。DTTL およびそのメンバーファームについての詳細は [www.deloitte.com/jp/about](http://www.deloitte.com/jp/about) をご覧ください。